

Vac. and Surv. #3

# 米国：接種を受けた方々

2/20/2021



アメリカでは、現時点において5・6・7 枠鎮が接種「できる」のは、医療・準医療関係者、養護施設入所者や学校など公共施設勤務者、慢性疾患があり、病院へ通っている方々などである。それ以外の人々は医療関係者との「コネ」で枠鎮を受けることが「できる」。

以降、周囲での「慣れ」や希少性によって枠鎮接種の是非に対する考え方を換え、接種に至った人々、彼らの接種直後の副反応について述べる。(その方々を批判しているわけではないことを御理解いただきたい。)

2型糖尿病を患う夫と婦人科系の癌治療を数年前に終えた妻。特に枠鎮そのものに対する否定的な考えを有しているわけではない。両者ともに1度目の接種では副反応なし。2度目の後に得た「変な:wired」副反応は、数日間にわたる頭痛、倦怠感、患部の痛み。奥様はこれらに加え、微熱、寒気もあったという(GA州「モ出瑠奈」社)。

「私はインフルエンザ枠鎮でひどい副反応が出たから5・6・7 枠鎮は打たない!」と言っていた血液癌を患っている高齢の女性クライアント。「私は「特別なコネ」で枠鎮を受けることができるようになり、ラッキーだ」と。

1度目の接種では副反応なし。2度目の際には、知人



の医師に、痛み止めを取ると良いと言われ、実行。

注入部に痛みは少しあったが、他の副反応はなかった(PA州「ファ位座一」社)。

彼女の娘さんは2度目の接種後には4日間ほど調子が悪かった(Sick)とのことだ(FL州「モ出瑠奈」社)。

「以前にアフリカ系アメリカ人は梅毒枠鎮の人体実験に利用されていた。今回も何かあるかわからないからしばらくは受けたくない。带状疱疹の予防接種で右目がいきなり閉じるようになったから予防接種は怖い」と言っていたクライアント。

彼女の旦那様も同様に反対していたが、彼は慢性疾患保持者で、お医者さんから「5・6・7 枠鎮はあなたのような人のためにこそある」と説得され、ご夫妻で早々に受けてしまった。

車で帰宅途中、旦那様が息切れをし始めたため、病院に戻ると、旦那様は新型5・6・7 ウイルスに観戦していたことが判明。2週間ほどご夫妻は隔離生活へ。旦那様の健康状態は回復しつつあるという。

二回目は10日後に予定している(PA州「モ出瑠奈」社)。

ペンシルバニア州知事は、あるアプリを携帯にダウンロードして、枠鎮接種情報を登録するよう勧めている、ということである。。。いよいよ監視社会が「安全性」のために勧められつつ強化されているのだ。

半数以上を超えると義務化、というのが一般的なシナリオか?

日本では、子宮頸癌枠鎮被害の訴訟に関する報道も見かけなくなると聞いている

(下掲載のビデオの中で池田氏がそれらに関する投稿を消されたと言っておられる)。

日本政府は反発を得ないように義務化せず、ジリジリと詰めて行くのだろうか？聞けば、「ファ位座一」社に資金を提供している BM 財団の長、B ルさんがオリンピックの開催に絡めて枠接種を勧めるように首相に提言した、と？開催そのものの是非が問われる中、内政干渉も甚だしい。

政府は「ファ位座一」社から大量の枠接種を購入しているので、接種がなければ、それ以上は売れないからね。

5 六 7 枠接種の不妊の可能性についての「ファ位座一」社の返答は、このリンクの動画によると曖昧だったようだ。

---

不妊の可能性についての「ファ位座一」社の返答

B ルさんが資金提供している製薬会社について：B 氏絡み製薬会社

「悪寒や微熱で済んでいるようだ」と胸を撫で下ろしておられるだろうか？

「何故それくらいの副反応で大騒ぎしているのか」と疑問に思っておられるだろうか？

この mRNA 枠接種の長期的影響は誰にもわからない。日野市議、池田利恵氏は、子宮頸癌枠接種の副反応から 5 六 7 枠接種の危険性への警鐘を鳴らし、出始めた 5 六 7 枠接種の副反応の動画を掲載する。

こんなことはあってはならないのだ。

HPV 枠接種と 5 六 7 枠接種：池田氏 左の動画は、覚悟の上ご覧ください。

作られた「社会的必要性」、PD の政治利用によってこの上ない速さで作られてしまった 5 六 7 枠接種。

誰もあなたを守ってくれない。各々が自身を、そして大切な人々を守っていくしかないのだ。

支配層にとっては一部のものしか人間ではないのだ。

ヒロシマ・ナガサキは人体実験だったではないか。

私の大切な、美しき日本の方々へ――

遠く離れたところから、あなた方の身を心から案じている者がここにいること覚えられますよう。

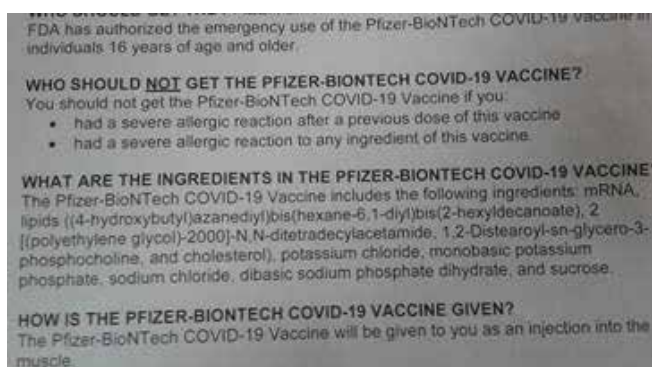
どうぞお元気で生まれ、次に会える日にまた、あなたのいつもの幸せなお顔を見せてください。

## Vac. and Surv. #4

# Fact Sheet: ホント？パン ダ先生と検証 しよう！

2/25/2021

「エリカ、これあげる。興味あるでしょ？」



5 六 7 枠接種を 1 度受けた友人がくれたのは、5 六 7 枠接種接種者と世話人へのファクト・シートである。その友人には、枠接種や 5 六 7 に関わるウソを度々シェアしたが、主要メディア信奉者だったため、それらは陰謀論として片付けられてしまった。。。

日く、「私は、仕事で自由に国内・海外を行き来でき

るように枠鎮を打つのだ。私の友人は受けた人が多いが、まだ誰もそんなひどい副反応が出たという話は聞いていない。枠鎮はパスポートのようなものだ。新変種がこれだけ出ているのだから、聞くかどうかわからないけど、これで自由になれる」。アメリカ人は「自由」を拘束されることには耐えられないようだ。

演技力が足りなかったのか、泣き落とし(笑)も効果なし。大変不本意ながら、2度目の接種時は万が一の副反応のために、車の送迎を頼まれ(涙)、悩んでいる。本人は、今日になって「変種のために毎年枠鎮を受けなければならぬとメテアで言われている。私はインフルエンザ枠鎮さえ受けたことなかったのに。所詮お金のためなのか?」と。保険を通じて、お金取られるだけならまだしも、お金のためにあなたの健康が、体が乗っ取られてしまうのだ、枠鎮は神経に影響を与えるのだ、と伝える。

大体、「大衆免疫のためには人口の70%の枠鎮接種が必要」というのも胡散臭い。Dr. Mayer Eissensteinはそうは言っていない(上から5番目のビデオ)。「大衆免疫=枠鎮接種率70%」は枠鎮が出はじめてからCDCが言い始めたことだ。昨冬に大衆免疫論が議論されていた頃にはそんなことは言われていなかったよ。

このファクト・シートを見て、最初に目に入るのは、ファイト座と美音テック。先日のブログで触れたが、どちらもBILさん系列会社ね。当然気になるのはその中身と副反応である。ここに書かれている副反応は、前回の記事で載せたものと大体同じであるが、神経系の影響については一切書かれていない(1976年と同じ)。豚インフルの枠鎮を勧めた側(CDC)は当時これを知っていたにも関わらず、インタビューではしらを切っていたようである。以下、パンダ先生の枠鎮シリーズをシェアすることに。皆さんもきっとYouTubeでお馴染みのことだと思う。楽しく、でも真剣に、PDのこと、枠鎮のことを色々調べられ、英語に関西弁字幕をつけたものを投稿してくださっていることには本当に頭がさがる思いである(全てを網羅できていないことをご了承ください)。

---

パンダ先生：報道されたい枠鎮の真実 20200601

枠鎮の副反応について。そして、このビデオからは、1976年の豚インフルエンザでも今日の5六7と同じ口

ジックが適用されていたことがわかるだろう。

ファクト・シートの5六7枠鎮の中身、mRNAやポリエチレン・グリコール以外は当たり障りなし。というか、一般人にはわからんね。「あーそなんだー」で終われば良いが、世の中そう簡単にはできていないようだ。

心ある医師たちによって明かされた枠鎮の中身。書くのも憚るほどである。。Dr. A Rashid Buttarは、

枠鎮への監査はなく、基本、枠鎮には何でも入れることができる、ということをおっしゃられた。問題を解決しようとすれば、国を訴えなければならぬと。そうしても裁くのは国(司法省)だから、勝ち目がない、と。

パンダ先生：脱・家畜

パンダ先生：報道されない枠鎮の真実 20200911

パンダ先生：報道されない枠鎮の真実4

パンダ先生：枠鎮のすべて 20200522

Important Fact Revealed about Vaccination

パンダ先生：医師たちからの訴え

Dr. Rashid Buttarのビデオ。愚かな行為としての枠鎮接種への反対、枠鎮監査の問題など。

Dr. Caryさんのビデオ。mRNA枠鎮の危険性、「あちら側」のプラン、人間管理計画について。

これはブツを入れた側の証言。またPA州である。。

枠鎮被害について。38分ごろからは枠鎮の中身などについてDr. Mayer Eissensteinが語る。

また、このmRNA枠鎮の予測不可能性については以下のビデオで図付きで説明がある(英語)。

権威ある方の勇気ある発言である。

本物の医師たちからの5六7枠鎮への警告(英語)。

日本の国会では神経系への副反応への補償などが審議されていた。大して蔓延してもないのに(笑)、

そんなにお金を払うと約束してまで5 6 7 枠接種を勧めるのは何故か? 「利権がらみでしょ?」

「あちら側に脅されてるんじゃない?」と思うのは私だけだろうか?

厚生労働省が「5 6 7 枠接種は義務ではなくて、本人の意志によるもの、受けない人を差別しないように」と言ったようである。ならば、枠接種不接種を理由に行動制限を設けようとする企業が仮にあったとしたら、これを盾に取ることはできるだろうか? 今回の厚労省による提言で、個人はある程度守られるかもしれないが、仮に企業方針で枠接種が勧められた際に、拒否して泣き寝入りするケースは表に上がってこない。

そうならないことを願う。こちらでは、訴訟をすぐ起こしそうだけど (ロックダウンの際に、州民がPA 州知事を訴えようとする動きがあったほどだ)。

さて、安全性を理由に予防策を講じ、人々を監視し、コントロールし、人体実験やお金儲けの材料にしようとする手口はこれまでで十分見えてきただろう (上から3 番目のビデオをご覧ください)。日本ではマイナンバーと絡めて、枠接種情報その他を政府が把握しようとしているのでは? という憶測・情報も飛び交っている。

まあ、そういう意味では米国の方が監視・監査は進んでいるかな (苦笑)。

納税・銀行口座・犯罪歴・運転免許証など全部 Social Security Number で管理されているからね。

ロック・ダウンが解除された時に、現金商売であるマッサージ・ビジネスに対し、感染予防という名目で、現金払いを制し、クレジット支払いや、デジタルマネーで全ての支払いを勧めているのを見て、「これは怪しい」と思ったものだ。安全のためならなんでもありで、恐怖に駆られた人々は簡単に己がプライバシーを開け渡してしまうのである (他にも言いたいことは色々あるが、自然療法の観点から外れてしまうので、この辺りにしておこう)。

目先のもの (メディアによる洗脳) にとらわれず、裏で何が動いているのか、長く、広い目で物事を見ていくことが大切だ。そして、創造的「陰謀論」(笑) で、向こうの手口を読んで権利の侵害を阻止して行かなければならない。

今回でこのシリーズは一旦おしまいにします (また何かあれば個別に取上げるけれど)。

いつもお読みくださり、ありがとうございます。

